

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成 25 年度第 1 回大学情報システム研究委員会議事概要

- I. 日 時：平成 25 年 9 月 28 日(土) 午後 3 時から午後 5 時まで
II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、会議室
III. 参加者：疋田担当理事、岩井委員長、片岡委員、杉山委員、小川委員、森本アドバイザー
アドバイザー賛助会員：朝日ネット、ニッセイコム
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本（記）

IV. 検討事項

1. 担当理事挨拶、委員の紹介

- ・ 学修ポートフォリオは研究の課題であり、理事会とのパイプ役を務められる説明があり、その後、各委員から自大学でのポートフォリオの活用を含めた自己紹介がされた。
- ・ 学修ポートフォリオについては、中央教育審議会の学長アンケートからも導入すべき、どちらかと言えば導入すべきの結果が 8 割になった意向が確認された。

2. 委員会の任務、運営について

- ・ 教育・学修機能の高度化等に関する情報システムの研究で、昨年まではクラウドのシステムを研究してきた。理事会でも今年度はシステム的な話より中身の問題をやっていく必要があるとの意見があり、答申等からもポートフォリオがあがっており、目的や利用者への共通理解をどのように戦略に考えるか、全学的にも活用が思わしくない現状から、委員会で議論して教職員、学生に理解を促進する必要がある。
- ・ 学修成果の達成状況を点検・評価する手段として、ポートフォリオの機能、役割、活用の方法、理解の普及対策などを整理する。
- ・ 情報システムとして e ポートフォリオの構築運用に伴う留意点、課題を年次計画で研究する。
- ・ e ポートフォリオの現段階でのイメージは、学生は学びの振り返りを通じて自主的に学修の目標を設定させて発展的な学びを促すツール、教員は学修行動を客観化することで授業の点検・評価を行って、その課題を発見するツール、大学では教育プログラムの効果を明確化して教学マネジメントの見直しを働きかけるツールとして多面的なミッションに機能するような e ポートフォリオを想定したい。
- ・ 委員会は 3 年計画を考えており、今年度はポートフォリオに求められる役割機能を整理するため関係者からヒアリングをしながら可能性を研究する。来年度は、データの共有、教務データなどとの連携、学修行動データの範囲・内容など IR の視点含め考えたい。次に教育マネジメント、教育制度、ガバナンスによる支援などの人・モノ・金や技術的な問題なども検討していきたい。

3. 問題提起

- ・ ポートフォリオは、何に効いてでどういうものかを広く知らしめる必要がある。大学のトップは不明瞭だが必要だろうと理解している。ポートフォリオは多様・多機能でどのように集約するのか。GP で過去に導入したものは廃れている場合もある。要因として、目的が明確でないこと、学内で普及が進まないこと、技術・人的支援が不足していることなどがあげられる。
- ・ 大学、教員、学生にとってどのような意味があるのか、日常的な言葉で説明する必要がある。
- ・ ルーブリックの例など細かすぎると利用されない、また、評価文化が根付いていないことなど、どのように簡単に知らしめて行くのか。質保証、学修時間、学修行動にどのようにつながっていくのか、教育・学修を深めていく、進化させていくという中において、どういう位置付けなのか全体を意識する必要がある。

4. 事例研究

- ・ 学修ポートフォリオは、学生には振り返りのツールとして重要で、教員には形成的評価でプロセスを大切にすることの重要性があり、大学には IR、教育プログラムが機能しているかの評価に使える。
- ・ 多様性の一つとして目的によってインターフェイスが変わる。
- ・ 活用の意義として、学修成果の蓄積、成長を確かめる、PDCA、学びと教育の見える化のツール。振り返ることがなくては意味がない。
- ・ 例えばルーブリックとの違い、細かい目標を設定しないなど
- ・ 認証評価の項目にポートフォリオが入っている。マトリックス思考を推奨している。到達目標を用意し、レベルに合わせて成果物を出していく考え方。
- ・ 例えば、活用事例としてアピールしたい活動記録、履歴書などポートフォリオコンテンツも考えられる。
- ・ 自己管理能力の養成、要約する力を付けさせる、書く力を育成、学生をのばすコメントの付け方など。
- ・ 問題点としては、普及の問題、カリキュラムにどのように組込むのかなど。教員が学生の状況を把握することが大切。
- ・ 既存の大学システムとマッチしない、履修登録とのリンクなどが課題になる可能性がある。

5. 問題点など委員の意見

- ・ システムを組む場合、必要なこと、データの流れる仕組み、データの活用、目的、操作など外部データも含めて議論すべき。全学で考えた場合、専門性が入り評価をどのようにするか、専門と他の行動調査とどのように組み合わせるか議論になる。分野ごとなど柔軟なシステム構成を考慮する必要がある。
- ・ 専門性がはっきりしている大学は運用しやすい、人文社会系は到達目標が立てづらくポートフォリオは使いづらいのか。医科歯科系大学では、全学で取組みはじめており学部連携や研修医教育などに活用しやすい。質保証を考えた時に、医学では国家試験がありますが知識しか問わない。チーム力教育でポートフォリオを書かせているが評価について模索している。現場でのパソコンの利用についても持ち込みや読む時間など課題が多い。
- ・ eポートフォリオとは何か、メリットがあるのかなど、本当のeポートフォリオとは何かを訴求する必要がある。ポートフォリオのメリットとして蓄積して振り返るまでの成長、あくまでツールであり、万能薬ではない。
- ・ 必ずポートフォリオを導入する必要はないことの誤解、導入がゴールではなく、学生の学び・質保証に向けた手段であること。ためてどうするかが大切で、どの時点でどのように振り返るのか、学修の中で振り返って勉強するポートフォリオと積み重ねることで見えてきた成果物のポートフォリオがあることの整理が必要。
- ・ ポートフォリオのデータは誰のものか、個人のものか、データの帰属先についてガイドラインが必要ではないか。個人、法人、団体か、セキュリティは、教育研究での利用や目的が範囲など。
- ・ コミュニケーションについては個人情報、技術系はわかりやすいが人間性やキャリア含めて個人的な情報が含まれる。
- ・ 紙の運用かeポートフォリオかは、紙はチーム運用では分断されてつながらない。教員連携にはeポートフォリオが必要。
- ・ 問題の一つが、総合的に見ようとしているのに、評価するときにまたバラバラにしてしまうこと。また、数字や知識テストでわからない部分をポートフォリオは評価できるが、今はデータを数値化する動きになっており、何か抜け落ちてないか評価部分で課題はないか。
- ・ 就職のエビデンスにした時、キャリアポートフォリオに学生が本当のデータを登録するか危惧される。学生にどのように理解させるか、学びのプロセスから大学として質保証して助ける必要がある。
- ・ 文章が上手なことから、振り返りが優れていることなのか。

- 評価感、学修感について、優劣をつけるものでなくてもどの段階にいて、将来のゴールに向かってどの道を通ってどこまで上がるのか。
- 学生から社会人にデータを引き継ぐこと。
- 学生がどのようにしたらメリットを感じてもらえるのか。役に立つ実感が必要。フィードバックが必要。どのように指導すべきか、フェイス to フェイスとの組合せも必要ではないか。
- 学生に愛着を持ってもらうこと。例えばポートフォリオコンテスト、テンプレートの工夫、心理的な負荷をさげることなど

V. 今後のスケジュール

- ポートフォリオの問題の洗い出しを行うことにした。（その後に社会のために普及できるのか、伝え方の検討に進むことにした。）メーリングリストに問題点を発信し、次回検討することにした。
- 実践例のヒアリングから問題点を捉える
- 次回委員会 11月30日（土）15：00～17：00 私学会館